

第4章 学ぶ

「桃初めて笑う」

花が咲くことを、昔は笑うといっていました。

桃は、三月下旬から四月上旬（旧暦三月三日ごろ）に開花する。

句読点くとうてんを学ぶ

平成二十九年四月十五日、Eテレ『スイッチインタビュー 達人達』を観る。

編集工学者の松岡正剛さん七十四歳は、元・雑誌『遊』の編集長。著作は八十冊、自宅兼仕事場の編集工学研究所は三階建てで、あらゆるジャンルの六万冊の本を所有している。

松岡さんが、『ここではきものをぬいでください』の「句読点は、どこにつけるか？」と言った。句読点によって文脈が違って来る事は、文を書いている人は誰でも知っている。しかし、これには驚いた。

「いいでは、きものをぬいでください。」
「はい、はきものをぬいでください。」

私は、「ここでは、」と想像していたので驚いた。「ここで、」は意外だった。違う文脈が生まれた。

俳句を学ぶ

平成二十九年一月十五日、朝六時三十五分からEテレ『NHK俳句』を観る。俳句は五・七・五の十七音の世界。この日の選者は堀本裕樹さん。力のある選者です。ゲストは小説家の羽田圭介さん。題は「風花」。風花とは、冬晴れの日に青空から舞い降りる雪片のこと。

芥川賞作家の羽田さんの俳句を、堀本さんが「風花」を詠み込んで直した。

〔冬の朝毎日作るハンバーグ〕 成功者K (羽田圭介)

直した俳句〔風花や毎朝作るハンバーグ〕

堀本さん「『朝』『毎日』が重なるので『毎朝』にした。季語は、たまたま今日のお題だったからではなく、『風花』が合う。『ハンバーグを毎日作る』という日常に、『風花』の儂はかなさを取り合
わせたら面白い」。

羽田さん「勉強になりました」と言った。新感覚の選者に期待したい。

◆堀本裕樹さんは、昭和四十九年、和歌山県生まれ。「いるか句会」「たんぽぽ句会」主宰。「梓」

同人。句集に『熊野曼陀羅』（第三十六回俳人協会新人賞）。著書に小説『いるか句会へようこそ！』。又吉直樹との共著に『芸人と俳人』などがある。

◆【余白の時間 堀本裕樹】

俳句との出会いは、今まで日常のなかで見過ごして気づかなかったことや心に眠っていたことを十七音で発見する喜びになると思います。俳句を作ったり読んだりする時間は豊かな時を育んでくれるはずです。豊かな時は日常のなかの「余白の時間」に生まれることでしょう。「余白の時間」に見たもの、感じたもの、触れたものが心を潤し、俳句の世界を広げてくれます。皆さんの作品を心より楽しみにお待ちしております。

中原中也を学ぶ

平成二十九年一月、月曜日午後十時二十五分からEテレ『1000分de名著 中原中也詩集』を観る。一月は中原中也、全四回。今年、中也生誕百十年、没後八十年の節目の年にあたる。

〔第一回〕一月九日放送。講師は作家の太田治子^{おたはるこ}さん、司会はタレントの伊集院光さん、NHKアナウンサーの磯野佑子さん。テキストにはない「春の日の夕暮」の話になった。

春の日の夕暮

トタンがセンベイ食べて

春の日の夕暮は穏かです

アンダースローされた灰が蒼ざめて

春の日の夕暮は静かです

一行目の「トタンがセンベイ食べて」が話題になった。

司会の伊集院光さんが、「僕は、トタン屋根の上に、まあるい月が出ていて、その月は、かじられて、はじっこが欠けているというイメージだね」と言った。講師の太田治子さんは、「センベイをかじる音がガリガリ、トタンの音」と言った。

私も同じ考えだったので、伊集院さんの意見に驚いた。太田さんも、驚いているのがわかった。伊集院さんの解釈は新しい。夫は、「ダイズムの影響ですね。突飛な連想を尊ぶ。」と言った。

〔第二回〕一月十六日放送。テキストを買った。家に居ながらにして勉強できる。好い時代です。

朝の歌

樹脂の香に 朝は悩まし

うしなひし さまざまのゆめ、

森竝は 風に鳴るかな

ひろごりて たひらかの空、

土手づたひ きえてゆくかな

うつくしき さまざまの夢。

「森竝もりなみは 風に鳴るかな」とは、美しいフレーズです。中原中也は天才です。

〔第三回〕一月二十三日放送。朗読は森山未来さんが担当している。「月夜の浜辺」の朗読に感動した。力のもった演じる朗読だった。「月夜の浜辺」の朗読をもう一度聴きたくて一月二十五日、午前五時に起きて五時三十分からの再放送を観た。なんと五時三十分は、Eテレの放送開始時間だった。

月夜の浜辺

月夜の晩に、ボタンが一つ

波打際に、落ちてゐた。

それを拾つて、役立てようと

僕は思つたわけでもないが

なぜだかそれを捨てるに忍びず

僕はそれを、袂たもとに入れた。

森山未来さんは、「僕は思つた」、「わけでもないが」と、間を取つて朗読をした。私は、このような朗読もあるのかと感動した。

〔第四回〕一月三十日放送。一行目の「思へば遠くへ来たもんだ」は、昭和四十七年（一九七二年）にデビューした武田鉄矢ら三人のフォークグループ海援隊のヒット曲「思へば遠くへ来たもんだ」（一九七八年発売）に使われた。講師の太田治子さんは、この詩が一番好きだそうです。

頑是ない歌

思へば遠くへ来たもんだ

十二の冬のあの夕べ

港の空に鳴り響いた

汽笛の湯気は今いづこ

※「頑^{がん}是^ぜない」は、幼くて、ききわけがない。

Eテレの子ども番組『にほんごであそぼ』では「サーカス」「汚れつちまつた悲しみに」が朗読された。新しくなっていく子ども番組に驚いている。

宮沢賢治を学ぶ

平成二十九年三月、Eテレ『100分de名著 宮沢賢治スペシャル』を観る。本屋で「宮沢賢治詩集」を買った。勉強は楽しい。

風の又三郎

どつどつ どどうどつ どどうどつ どどう

青いくるみも吹きとばせ

すっぱいかりんも吹きとばせ

どつどつ どどうどつ どどうどつ どどう

「風の又三郎」は、「どつどど どどどど どどどど どどどど」と風が吹いて物語が始まる。「青ぞらで風がどうと鳴る」九月一日の朝、教室に「まるで顔も知らないをかしな赤い髪の子供」が座っていた。彼は、友人たちと、つかのまの学校生活を満喫するが、ある日、突然消え去って行く。「ど」を「怒」と解釈すれば巨大な「怒り」の息のようなもの。子ども番組『にほんごであそぼ』では、能楽師の野村萬斎さんが、赤い衣装で「どどどどど どどどど どどどど どどどど」と歌い踊る。「ど」は、まさに「怒り」を表現している。「怒り」「怒りにふれる」「怒りをぶちまける」「怒り心頭に発す」「怒り狂う」「怒る」。いろいろな「怒」がある。

雨ニモマケズ

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

なぜ「雨ニモマケズ」は国民的な文学になったか。宮沢賢治といえは「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」です。この「マケズ」ということが重要。勝つのではなく、負けない。負けない者こそが一番強い。

「ジブンヲカンチャウニ入レズニ」、個を出して何かを主張しすぎると世間から叩かれる。自分の意見は勘定に入れず、常に人の顔色をうかがい、世間の目を気にして、生きていくことが必要になる。そして最後、「サウイフモノニ ワタシハナリタイ」と記した。私はそういうものだ、ではなく、そうなりたいと願った。

賢治の死後に発見された「雨ニモマケズ」は、戦争に向かう時局と一つになって、スローガンのように使われるようになった。さらに戦後すぐの時代には、「一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ」が、中学校の国語の教科書に掲載されるにあたり玄米四合は食料不足の実感とかけ離れているとして三合に変えられたという逸話もあるほど。

戦前・戦中の価値観が否定された戦後も、長く教科書に載って生き続けた。「マケズ」が、戦後の人々の心の支えになった。

『100分de名著 宮沢賢治スペシャル』を観て学んだからわかった事です。知らない事を知る。私は感動しています。この感動を、みんなに話したいと思っています。

◆宮沢賢治は、急性肺炎で容態が急変する。「法華経」一千部を知人に配布するよう父に遺言し、昭和八年（一九三三年）九月二十一日に亡くなった。

永訣の朝

けふのうちに

とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ

(あめゆじゆとてちてけんじや)

今から死の世界に旅立って行こうとする妹トシ、(あめゆじゆとてちてけんじや)は、いろいろな解釈がある。(雨雪を取って来てください)というトシの言葉。(雨雪)とは、みぞれのこと。その言葉を受けて「まがつたてつぼうだまのやうに」みぞれの中に飛び出して行く兄。二人の情景が鮮烈に描かれている。賢治はトシと幸せに過ごした幼い頃を思い出しています。せつなくて悲しい。

詩にはトシと賢治だけが描かれているが、実際にはもう一人の妹シゲが傍にいた。岩田シゲの回想録が発見されたと、平成二十九年十二月一日の読売新聞が報じた。

「永訣の朝」の日の情景が書かれているのは、「姉の死」と題した二編。「大正十一年の十一月二十七日、花巻はみぞれでした」という書き出しで、肺結核のため二十四歳で亡くなったトシの臨終の日の家族のようすを振り返る。この時、賢治は二十六歳、シゲは二十一歳。文中でシゲは、トシのために雨雪を取りに出た賢治に同行して、「ビチヨビチヨと降る雨雪にぬれる兄に傘をさしかけながら、……緑の松の葉に積もった雨雪を両手で大事に取るのを茶碗に受けて、そして松の小枝も折って、病室に入りました」と回想。

また、トシが今度生まれてくるなら「こつたに自分の事ばかりで苦しまないように生まれて来

る」と言うのと、父の政次郎が、賢治らに「皆で（賢治とトシが信じる法華経の）お題目を唱えてすけて（助けて）あげなさい」と言ったという。

賢治は、その場にシゲがいた事を省き、事実を基にして、死のふちにいるトシが見せた気高い精神に応えようとして、自分の祈りと願いの表現にした。賢治とトシ、永遠に美しい。

◆「永訣」は、永別、永久の別れ、ながの別れ、死別。

廃棄本について

平成二十九年四月二十七日の毎日新聞によると「フランス文学者で元京都大教授、桑原武夫さんの遺族から寄贈された蔵書約一万冊を、京都市が平成二十七年に無断で廃棄していたことが、遺族側関係者などへの取材でわかった。利用実績が少なかったことから、保管の必要はないと判断したという。市教委は判断が誤りだったと認め、遺族に謝罪した」。

個人の蔵書が一万冊とはすごい。遺族は利用してもらおうと寄贈したのでしよう。蔵書データを公表すれば利用者がいたでしょう。図書館なので、同じ本が二冊、三冊とあってもかまわないのではないか。しばしば読みたい本が他の人に借りられていて待つということもあります。各所の図書館に分散するとか、桑原武夫記念館を作ることではできなかったのでしょうか。廃棄処分とは残念です。

平成八年（一九九六年）四月、松田町の図書館に『童謡を歌おう 神奈川の童謡33選』（センチユリー出版）を寄贈に行った。私の最初の著書だ。図書館の受付で「この本を寄贈したいと思います」と言うと、「廃棄本にしておきます」という受付の女性の返事だった。私は耳を疑った。本を持って、事務所に行つて抗議した。私が、事務所の窓口で大声を上げて泣いているので、事務所内にいた五、六人の男性が全員部屋から出て来て、泣いている私を取り囲んだ。「この本は初版本で新品です」と言っている所に、図書館の受付の女性が走つて来て私から本を受け取った。それで終わった。いったい何だったのだろう。

道徳の教育化 「兵隊さんの汽車」から「汽車ぼっぼ」に

小中学校で平成三十年度以降、道徳が教科化される。これまでの教科外活動から「特別の教科」に格上げされる。他の教科と同様に検定を受けた教科書を使うが、評価は数値ではなく子どもの成長を文章で表す形で行い、入試の合否判定には使わない。

御殿場市教育委員会では、「汽車ぼっぼ」を道徳の副読本に掲載すると聞きました。早速、『読む、歌う 童謡・唱歌の歌詞』改訂十八版を作るにあたり、「兵隊さんの汽車」に手を加え、わかりやすくし、御殿場市教育委員会に手紙と一緒に三冊送りました（平成二十九年五月二十四日）。しかし、受け取ったという連絡はありません。

「兵隊さんの汽車」「汽車ぼっぼ」の作詞者の富原薫は、明治三十八年七月三日、当時の静岡県駿東郡御厨町御殿場（現・御殿場市）の出身。昭和二年（一九二七年）、准教員として高根尋常高等小学校に転勤。以後三十年余りの間、訓導（戦後は教諭）として昭和三十三年（一九五八年）三月までの大半を高根小学校で勤務し続けた。その期間が富原の作詞作曲の全盛期。詩は、時代的なこともあるが、軍国調の物が多い。「大日本青少年團歌」の作曲もしている。大日本青少年団の団歌の歌曲に応募し当選した。応募には深山芳香（みやまよしか）のペンネームを付記している。

平成二十七年三月二十一日、NHK放送九十年記念番組『紅白が生まれた日』は、良くできていました。主演の松山ケンイチさんが、川田正子役の子に、「もう新しい歌詞は覚えましたか」と訊く場面がありました。これで「兵隊さんの汽車」から「汽車ぼっぼ」に変わった事を表現していました。「汽車ぼっぼ」は、レコードに収録されている少女歌手・川田正子さんの歌声を使いました。

では、なぜ「兵隊さんの汽車」が「汽車ぼっぼ」になったのでしょうか。昭和二十年（一九四五年）の大晦日のラジオ番組『紅白音楽試合』に、正子が出場し、「兵隊さんの汽車」を歌う事になりました。しかし、GHQ（連合国軍総司令部）のCIE（民間情報教育局）から「歌詞をかえなければダメ」と言われました。「兵隊さんの汽車」は、日本の兵隊を励ます歌なので進駐軍の許可が出ませんでした。当時はCIEの指導、監督下であり、番組計画から台本まで、すべてCIEに提出し、事前に許可を得なければなりません。富原薫が「兵隊さんの汽車」から

「汽車ぼっぼ」に書き直した時の事については諸説があります。物語風に面白おかしく書くには、もってこいの内容だからです。

改作された「汽車ぼっぼ」の三番の歌詞「あかるい きぼうが まっている」には、富原薫の平和への思いが込められています。川田正子さんは、公演で「汽車ぼっぼ」を歌うとき、「この歌は私の歴史そのものです」と紹介していました。「兵隊さんの汽車」と「汽車ぼっぼ」を歌った事については、「曲の方は、かわりなく、戦中戦後の混乱期に大勢の観客の前で、違う歌詞を歌ったと言うこと。この印象は、幼心にも強く、いつまでも心の内に焼きついております」。元の歌の内容が兵士を送り出す光景だったと知る人が次第に少なくなってきました。

富原薫は時代のメッセージとして歌詞を書き、未来に思いを託して歌詞を書き替えました。「兵隊さんの汽車」と「汽車ぼっぼ」は、まさに時代を伝える歌です。

富原薫の作詞には「早起き時計」もあります。戦後、進駐軍は集会を規制しました。ラジオ体操も理解されず、一時期取り止めさせられました。当時、日本では朝起きるとラジオ体操をしました。子どもだけでなく大人も家から広場に集まる習慣は、進駐軍にとって「いったいなんだろう？」と不思議だったに違いありません。戦う相談ではないかと警戒したのでしょう。これにより富原薫と河村光陽が相談して、「さーっさ ラジオ体操だ」は、「ちゅんちゅくすずめ よん ている」に改めました。「ラジオ体操」という言葉を削除してしまうと、三番のラジオ体操のかけ声の「一二三」が意味をなしません。この歌には、朝起きてから学校へ行くまでの時間の

経過があります。

歌に響き続ける「ちつくたつくちつくたつく ぼーんぼん」の時計の音を表わした擬音語が効果的です。「ちつくたつく」は、秒針の動きと音を示し、「ぼーんぼん」は時刻を知らせる音です。

河村光陽は明確な時計のリズムを表現するために四分の二拍子で作曲しました。見事です。

御殿場市教育委員会の副読本に期待したい。道徳は、子どもたちの心の教育です。方向を間違わないようにしていただきたいものです。

◆「ラジオ体操」は、今年（平成三十年）九十周年になります。戦時中も行われていました。

二宮金次郎を学ぶ

誕生の場所 栢山村説

天明七年（一七八七年）七月二十三日（今の暦では九月）、酒匂川さかかわがわ近くの相模国足柄上郡栢山村（現在の小田原市栢山）で、父・利右衛門（りえもん）三十五歳と、母・よし二十一歳の長男として農家に生まれる。

誕生の場所 曾我別所村説

天明七年七月二十三日、母・よしの実家（川久保家）の曾我別所村で生まれ、栢山村で育ちました。

神奈川新聞 平成二十八年八月二十六日『わが人生 60』の著者・田嶋亨たじますむさんによると次のようです。

「川久保家の当主は代々、太兵衛を名乗っていました。よしの父は十三代目。その頃は豪農で隆盛を極めていました。栢山村の二宮家も金次郎の大伯父である四代目万兵衛と、祖父の銀右衛門の時代は裕福であったことから、銀右衛門の息子の利右衛門と、よしの婚姻話が進んだようです。

利右衛門は栢山で十三石の田畑と家を受け継いでいました。金次郎を身ごもったよしは、曾我別所に里帰りして出産に備えます。

「金次郎の生誕の地は栢山と言われていますが、本当は曾我別所なんですよ。お七夜を過ごして、よしの両親が栢山まで送っていききました。酒匂川は洪水後で荒れていました。道板を用意して手すりの代わりにしたそうです。また、土手が崩れてなくなっていたので、今度は道板を敷いて上がるなど、大変な目に遭いながらも娘と孫の金次郎を送り届けたと、代々伝えられてきているのです」と語るのは、安土桃山時代の初代から数えて十九代目の現在の当主・川久保暉勇あきおさん。◆「一石」は、「いちごく」と読む。一石は一人の人間が一年間で消費する米の量といわれている。

「川久保家に代々伝えられてきている」話は、小田原市尊徳記念館の館長によると、「どこにも書き残されていない。文献がない」そうです。

昔は実家に帰って出産したので「母・よしの実家（川久保家）の曾我別所村で生まれ、栢山村で育ちました」が正しいのではないかと思いますが、証拠になる文献がないといけなようです。

栢山村で生まれたのなら、金次郎の母だけ実家に帰らないで金次郎を出産したことになってしま
います。それは変です。私は、「金次郎は曾我別所村生まれ」と書いてある物をさがしています。

謎が解けた

なぜ、生家跡地ではなく、村の往来に「二宮先生誕生地」を建碑したのか？

「由緒」よりも「顕彰」を重視したためだった。

・「由緒」 Ⅱものごとの起りりと、今まで過ぎて来た筋道。来歴。いわれ。家柄。

・「顕彰」 Ⅱ功績などをたたえて、広く世間に知らせること。

「顕彰」を重視するためには、村の中心を通る道で、その地域を特徴づける建造物（ランドマ
ークⅡ目印）である善榮寺の近くを建設場所を選んだ。神奈川から静岡の報徳関係者による支援が
あった。

証拠となる文献はある

明治四十二年、井口丑二著『報徳物語』（第一編）より抜粋

「村の東端、小田原の方からの入口が東栢山で、ここに「二宮先生誕生地」（渡邊昇子筆）の
碑、及び「貧富訓」（筒井憲筆）の碑がある。そこは百余坪ある（栢山共有地）の境内で、四方
を花崗石の玉垣をめぐらし、立派に取り設けてあるが、実は実際の誕生地ではないけれども、便
宜に依って、此の公道の傍らに建てたといふのである。其の向ひ側に善榮寺がある。……」

注目したいのは、「実際の誕生地ではないが、便宜がいいので公道の傍らにたてた」という記述。実際の誕生地ではないと書いてある。

◆平成二十九年年度・金次郎を学ぶ会「尊徳記念館ができるまで」講習会（七月十六日）資料を参考にしました。

平和な日々

金次郎の家はかなりの地主であり、働きの祖父・銀右衛門（ぎんえもん）が荒地を開墾し、あるいは買い求めて金次郎の父・利右衛門（りえもん）に伝えた田畑は、合わせて二町三反（二・三ヘクタール）ほどでした。利右衛門は「栢山の善人」と言われる人で、母・よしもやさしい人柄で、何不自由ない平和な毎日を送っていました。

◆銀右衛門には子どもがなかったので、甥である本家の次男を養子にした。この養子が金次郎の父・利右衛門です。

二宮金次郎の家

寛保二年（一七四二年）頃、金次郎の祖父・銀右衛門の代に建てられたと考えられている。享和二年（一八〇二年）、母・よしが亡くなり、金次郎一家が離散すると、売却され他所へ移されたが、昭和三十五年（一九六〇年）、尊徳記念館敷地内のもとの場所に再度移築・復元された。復元されると、近所の幼稚園や小学校の人気の遠足スポットとなりました。

貧しい暮らしの始まり

寛政二年八月二十八日、弟（次男）友吉（のちの三郎左衛門）が生まれる。寛政三年八月、関東地方を大きな暴風雨が襲いました。酒匂川が氾濫し、田畑の大部分が流出する。栢山の被害は大きく、利右衛門の土地はほとんど石や砂の下に埋まってしまいました。五歳の金次郎は梁（柱）の上に渡して屋根を支える材木）の上に乗って、家の中まで渦巻いている濁流を震えながら見ていました。二宮家の貧しい暮らしは、ここから始まるのです。

父の利右衛門は石や砂で埋まった田畑を元通りにするために懸命に働きましたが、大変な仕事でした。殿様に納める年貢米は、それほど減らしてもらえなかつたので他の人から米を借り、肥料を借り、お金を借りました。さらに「栢山の善人」といわれた利右衛門は、他人を助けるために自分の土地を失うこともありました。

松苗を植える

寛政十一年十二月三十日、弟（三男）富次郎（よみじろう）が生まれる。この頃、足柄平野を流れる酒の匂川は暴れ川だった。洪水で家の田畑が全滅、極貧に陥った。堤防の重要性は子どもながら肝に銘じ、足しげく堤防を見回り「土手坊主」と呼ばれた。子守の代金で松苗二百本を買って土手に植えるなどした。

◆「金次郎の松」神奈川県小田原土木事務所によると、酒匂川の堤防の松は、現在九百七本ある。

樹齡が百年程度と推測されることから、金次郎が治水のため植えたものではなく、明治期に入つて、その遺志を引き継いだ地元住民が植えた二代、三代目らしい。

父が亡くなる

寛政十二年九月二十六日、金次郎の懸命な努力もむなしく、父・利右衛門が四十八歳で亡くなつてしまいました。父が亡くなつてから、母・よしが幼い弟二人をかかえ、荒れた田畑を耕すのを見て金次郎は、いっそう頑張つて働きました。朝早く起きて、日が暮れるまで母を助けて畑仕事をし、夜は遅くまで縄をないました。

母が亡くなる

享和元年、貧乏のどん底生活を味わう。年末の用意もできない。借金取りが来る時は、みんなで隠れてやり過ごしました。

享和二年一月、大神楽が来るが、お金がなく、戸を閉め居留守を使う。四月四日、父・利右衛門が没した二年後に母・よしも貧困の中で亡くなります。三十六歳の若さでした。

二宮家の崩壊

享和二年、また酒匂川が氾濫して、わずかに残っていた土地も、再び石や砂の下に埋もれてしまいました。これで二宮家の財産は皆無になりました。

両親を失い、土地を失った兄弟は、どうしてよいかわからず、泣いてばかりいました。親戚が集まって相談し、十六歳の金次郎は、隣の父方の伯父・二宮万兵衛まんべえがあずかることになった。二人の弟（十三歳になる次男の友吉と、四歳になる三男の富次郎）は、母・よしの実家、曾我別所村の川久保太平衛の妻（母方の祖母）が引き取り面倒をみることになりました。家族は離散した。金次郎は十六歳から十八歳まで万兵衛の家で過ごしました。

金次郎の決意

金次郎は、一生懸命土を耕すとともに、学問を通して自らの心を耕そうとしてきました。心を耕すということは、心を広げ理想を持つという事です。

父と母を失い、兄弟が離ればなれになってしまいました。家を立て直し、兄弟一緒に暮らしたいと願っていつそう仕事に励みました。自分の家だけでなく、二宮総本家も、母の実家の川久保家も同じように傾いて行った様子をよく見ているだけに、普通の百姓の働きだけでは、家の立て直しはできないことを知っていました。一生懸命働きながら学びました。

文化元年、伯父の万兵衛方を去り、村の名主なぬしの岡部方に入ります。岡部家では学問を好み、学者をよんで講義を聴くことが多かったのです。その時には金次郎も一緒に熱心にその話を聞いていました。

文化二年、二宮七左衛門方に住み込み、荒れ田を復旧し、耕作を進める。文化三年、生家の近くに小屋を建てて住み独り立ちする。二宮家再興に着手する。田地（九アールあまり）を買い戻

す。母の実家にあずけられている弟の生活費や、祖母への小使い・薬代をたびたび送り、二宮総本家の復興のための基金づくりを行いました。

文化四年、弟（三男）富次郎が九歳で亡くなりました。

文化五年、金次郎は一生懸命働いたので、次第に米、金の貸付や小作米の収入が増え、母の実家の川久保家に援助するまでになりました。生活にゆとりができてきて、絵や俳句をたしなむ。

文化七年十月、江戸へ行く。十一月、伊勢・京都・奈良・吉野・大阪・琴平などを旅行する余裕ができました。

文化九年、小田原藩の家老・服部十郎兵衛はっとりじゅうべえの家に住み込み、若党わかどう（奉公人）になる。三人の息子の教育係などを勤める。学問を学び、財産を増やし、着実に二宮家の立て直しを行って行きました。一町五反（一・五ヘクタール）近くの地主になりました。

◆「一ヘクタール」は、百メートル×百メートルで一万平方米メートル。「一アール」は、十メートル×十メートルで百平方メートル。

尊徳も新しい

小田原市は道徳・社会科の学習として四年生に二宮金次郎の研究を課題にしています。展示発表、作文の発表、農作業の体験学習もあり、よいことです。

金次郎は、昼は働き夜遅くまで読書したので、菜種油がもつたいないと二宮万兵衛に叱られま

す。小学生の研究展示発表の中に「万兵衛さんは意地悪な人」「万兵衛さんは、おこりんぼう」と書いてあり、ほほえましい。小学生は素直にそう感じるのでしょうか。万兵衛は強欲非道と思われていますが、勉強するよりも農業に励むよう叱ったと思います。

小学生が作った 俳句「カルタ」(二〇一七年)

今どきの子どもたちの解釈です。

- ・ 本を読む 尊徳さんは 頭いい
- ・ 万兵衛は 尊徳育てて 疲れてる
- ・ ろうそくの 油を無駄に 本を読む
- ・ 油をね 夜に使って 明るいよ
- ・ 利右衛門は お人よしだよ あますぎる
- ・ ルンロンと 歩いていたら 苗みつけ
- ・ 稲の苗 育てて取って おらの物
- ・ へんだよね 尊徳さんが 武士になる
- ・ 歴史には こんないい人 いたんだな

『尊徳祭』では、子どもものの作文の表彰があります。俳句カルタの表彰もあるといいと思います。俳句カルタは毎年おもしろくなっています。Eテレの子ども番組『にほんごであそぼ』の〈ごも

じもじ)「♪ごもじもじ　ななもじなもじ　ごもじもじ　みんなで作ろう　ごもじもじ」の影響
でしょうか。

のちに尊徳が弟子らに語った話が「語録」や「夜話」など、数多く残されている。例えが上手
で、字の読めない農民にも理解できた。

「湯船の話」譲ゆずって損そんなく、奪うばって益えきなし。

風呂で熱い湯を自分の方にかき寄せても反転して逃げて行く。逆に押しやるとこちらへ回って
くる。動物のような奪い合いより、人道の譲り合いの和が大切ということ。

「積せき小しょう為い大だい」小さな努力の積み重ねが、やがて大きな成果に結びつく。

「天地あめつちの心こころ」声こゑもなく香かもなく常とこに天地は　かゝざる経きやうをくり返かえしつゝ、。

実験をする

Eテレ『2355』（金曜日）、爆笑問題の田中とみなさんによる『夜ふかしワークショップ』
がおもしろいので、やってみた。未知の物にチャレンジするのは楽しい。解説は太田光さん。太
田さんの解説はわかりやすい。

「簡単に性質をかえる」の巻

用意する物（ステンレスのフォーク、十円玉、針金、磁石、金づち、ペンチ）。

太田さん「十円玉は磁石につくか？」田中さん「つかない」。

「ステンレスのフォークの先は磁石につくか？」「つく」。

「ステンレスのフォークの真ん中は磁石につくか？」「つかない」。

「針金につくか？」「つかない」。

「では、あることをすると針金は磁石につく。それはどれか？」

(一) ライターである。

(二) 電池で電流を流す。

(三) ペンチで曲げる。○正解。ペンチで曲げると磁石につく。

「ステンレスのフォークの真ん中も、金づちでたたくとつく」というのだが、

「ステンレスのフォークの真ん中は、たたかなくても最初から磁石につく」。

台所にあるフォークを全部ためしたが、全部磁石についた。田中さんの持っていたフォークの

真ん中は磁石につかなかった。金づちでたたくと磁石についた。「ウチのフォークと、どこが違うのか、なぜです」。

「視覚の仕組みがわかる」の巻

紙を筒状に丸める。遠くの物（コップやタンスなど）をのぞく。のぞいていない目も開ける。筒の横に手を近づける。そのまま両目は開けておく。手のひらに丸い穴があいたように見える。

「手に穴があく。不思議」。

「あの声の作り方」の巻

用意する物（紙コップ、マーブルチョコレート、またはお菓子のラムネでもよい）。紙コップにマーブル玉を入れる。紙コップに口をつけて話す。

「みなさん、おはようございます。今日も元気に歌いましょう」とやった。童謡の会員は突然の事に驚き、爆笑となった。

「缶を斜めに立ててみよう」の巻

用意する物（コーラの缶）。

一、飲んでパワーをつける。二、温める。三、ふって泡立てる。

答えは「三分の二飲む。一が正解」。

翌日、コーラの缶を買って来てためした。少し飲んで立って、飲んで立って、「オオッ、立った」と思ったその瞬間、テーブルに缶が転がった。残っていたコーラがこぼれた。床にも。田中さんの缶が見事に立ったからといって、同じようにずっと立っているわけではない。缶が斜めに立つても油断大敵の実験です。

「おどろくばあや文字」の巻

用意する物（ペン、紙）。

太田さん「自分の名前を逆さ文字で書いてください」田中さん「難しい」。

太田さん「では、おでこに紙をあてて書いてみてください」田中さん「書けた」。

最初は、ひらがなで一文字ずつ書くのがコツです。書けたかどうか、鏡を使って確認します。だれでも簡単に逆さ文字を書くことができます。

「ダイラタンシーで遊ぶ」の巻

目的 ダイラタンシー現象とは、物体の内部に力がかかり、液体の状態から固体に変化する現象です。原理としては、物体（片栗粉）の粒子に力が加わると、その微細な粒子が密集して粒子間の隙間が小さくなり、強度が増し固体になります。しかし力を加えるのを止めると再び粒子の隙間が広がり、元の液体へと戻ります。

用意する物（片栗粉、水、ボール、リンゴなどの堅い物）。

実験手順 片栗粉をボールに入れ、水を加えます。水の量は（片栗粉2）に対して（水1）を使用。水を加えたらよくかき混ぜます。これで、ダイラタンシーの出来上がり。非常に簡単。

実験方法 出来上がったダイラタンシーは握っている時は固いが、手を広げると液体に戻ってしまいます。高い位置からリンゴなどの堅い物を落します。どうになりましたか？

冷蔵庫に期限切れの片栗粉が一袋あったので、捨てる前にダイラタンシーを作って遊ぶことに

した。ボールに片栗粉一袋を入れ、水を入れて溶かした。「これでよし」。リングを高い位置から落とした。台所に悲鳴があがった。「ウワーッ」顔に、台所中に、白い色の水が飛び散った。掃除に手間取った。ダイラタンシーはできていなかった。

夫に話すと、「片栗粉と水の分量を間違えたのでしよう」と言った。「エッ、分量？」すっかり忘れていた。

「どっちが厚いか」の巻

用意する物（十円十個、百円十個）。これを重ねて比べる。

「十円玉と百円玉、どちらが厚いか？ どのようにしたら簡単に厚さの違いがわかるでしょうか？」。私は、これは簡単、答えは「百円玉が厚い」と思った。

十個重ねる前に、五・六個重ねた時点で百円玉が厚いことがわかる。お金は身近なものである、実際に実験してみると楽しい。

「レーズンの運命」の巻

用意する物（水を入れたコップ、炭酸水を入れたコップ、レーズン）。

「水の入ったコップにレーズンを一粒入れる。浮くか沈むか？」沈む。

「炭酸水の入ったコップにレーズンを一粒入れる。浮くか沈むか？」コップの底に沈んだレーズンは、炭酸ガスの泡をまよって浮いて来る。浮き上がったレーズンは泡が消えると下に沈む。

浮き沈みする。

一度使った炭酸水を飲んでから、爆笑問題の田中さんがしたようにスプーンでかき回し泡立てからレーズンを入れてみた。結果は同じだった。

次に使った炭酸水を飲んでから、今度は、おおきさの違うレーズンで競わせることにした。

第一のコース・ゆり坊（小粒）、第二のコース・マサオ君（中粒）、第三のコース・よっちゃん（同じく中粒）、第四のコース・大翔丸君（大粒）……

一斉に炭酸水に入れた。おお、ゆり坊が激しく浮いたり沈んだり。マサオ君もスイスイ調子に乗っている。よっちゃんは、やっと一回、そして二回、三回。頑張れ ガンバレ！ すごいぞ、その調子だ。おお、やったね。大粒の大翔丸君は全く動きを見せません。沈んだままです。なぜでしょう？

「箸で裏返してみましようか」「反応がありませんねえ」「殴ってみましようか」「暴力はいけません」「沈黙は金とも言いますね」「そろそろ時間です」。

ああ、おもしろかった。久々に興奮した。ゲップが出た。三ツ矢サイダーを一本飲みほした。お腹が冷えた。寒い、ゾクゾクする。今日は平成二十九年十二月一日（金曜日）『Eテレ』2355の時間です」。

「きっかり半分にする」の巻

円筒形のカップにコーヒードが入っている。円筒形であることが大切。このコーヒードを、きっか

り半分にするには、どうするか？

田中さんと私はわかりませんでした。「考え込みました。「どうするのでしょうか？」正解は、「傾けてカップの底が見えるまで中のコーヒーを飲む」でした。田中さんと私は感動しました。これを観るために「夜ふかし」をしてよかったですと思いました。

翌朝、夫に話すと「底が見えるまで飲む」と即答しました。「なぜ、わかったの？」「だれでもわかるよ」「そうですか」。夜中の感動は、いったい何だったのでしょうか。「つままないな」。

◆「きっかり」すこしのくいちがいもないようす。ちょうど。かっきり。きっちり。